

栄養管理に苦慮した、嚥下障害を伴うデイケア利用者の一例

溝口由佳¹⁾³⁾、東口高志²⁾、伊藤彰博²⁾、大原寛之²⁾、堀内薫¹⁾、松本真奈美¹⁾、吉田友紀¹⁾、
二村昭彦³⁾、井谷功典³⁾、赤塚文子³⁾

藤田保健衛生大学七栗記念病院 医療技術部 食養課¹⁾

藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座²⁾

藤田保健衛生大学七栗記念病院 デイケア NST³⁾

【はじめに】デイケア利用者の食事摂取内容を把握し、適切な栄養管理を実施することは、特に他施設の利用がある場合、困難な事が多い。今回、デイケア NST の介入により、利用者の栄養改善に至った症例を経験したので報告する。

【症例】82歳、男性。右視床出血後遺症で当院デイケアに通所。多発性脳出血後 X 年 1 月リハビリ目的で当院へ入院。入院中左視床出血を発症し、一時前医へ転入院。この間妻の介助量軽減のため、退院時 59.5kg (BMI21.7) まで体重減少を図った。しかし 2 ヶ月後に 54.6kg (-4.9kg、体重減少率 8.2%、BMI19.9) と減少続いたため、デイケア NST がご家族に在宅での食事内容の聞き取りと食事指導を行い、ご本人にも食事摂取量増加を促した。また他の利用施設の情報共有 (VF 検査結果等) を実施し、食形態を再検討した結果、1 年後には 57.6kg まで回復した。

【まとめ】デイケア利用者の食思不振、体重減少に対して、デイケア NST の様々な栄養介入が有効であった。